

## 学びの創造

秋に発刊予定であった今号が、新しい年を迎えての発刊となってしまいました。時の経つのは早いもの・・・と言いつつ一方で、今冬の厳しい寒さと積雪には襟を正されるような思いがします・・・。

昨年11月に当センターは改修工事が完了し、リニューアルして元の場所に戻ってまいりました。センター本体とセンター附属臨床心理相談室の最新情報を中心にお伝えしたいと思います。

### ★センターが新しく、きれいになりました！

毎年実現するのではないかと噂されながら諸事情により延び延びになっていた、センターおよび5号館の改修工事がいよいよ現実のものとなりました。

昨年5月に1号館と3号館に散り散りになったセンターのスタッフと備品が、11月の改修工事完了とともに戻ってまいりました。まなびプロジェクトをはじめとするさまざまな事業がこのセンターの新たな設備と、5号館2階において展開していくこととなります。お楽しみに！



### ●附属臨床心理相談室も生まれ変わりました

センターと同時に改修された5号館1階には、一般の方を対象として心理臨床活動を行う臨床心理相談室も戻ってまいりました。外部から来られる方が分かりやすいように1階部分が藤色に彩られています。もちろん室内もリニューアルされ、小さな来談者に伸び伸びと治療的な遊びを提供できる大きなプレイルーム、個別面接のための複数の面接室、そして安心して面接に備えていただくための待合室が設けられました。今後も利用者にとってさらに心地よい空間となるよう、ハード面の充実にも一層力を入れながら、同時に対応する心理職の職能をレベルアップしていくことを目指していく努力が必要になります。



### ▽第21回教育実践セミナーが開催されました

去る12月15日、『いま、発達障害を考える ～“診断がつきにくいけれど支援が必要な子ども”への対応～』と題して当センター主催 第21回教育実践セミナーが開催されました。第Ⅰ部では秋田県医療療育センター小児メンタルヘルス外来の渡部泰弘医師に「発達障害は誤解されていないか？」というテーマでご講演いただきました。ともすれば子どものネガティブな特徴を示すものとして用いられやすい診断名が、本来は子どもの特徴を理解し、健やかに育てていくための支援の道具であることを改めてお示しくさせていただきました。

第Ⅱ部では、今回のセミナーのテーマに沿って当センター斎藤孝特任教授の司会によりシンポジウムが開催されました。センター長 武田篤教授を指定討論者として迎え、県教育庁特別支援教育課 佐藤圭吾指導主事が「教育行政」、附属特別支援学校の小川成樹教諭が「特別支援の学校現場」、柴田健教授が「臨床心理学」、そして渡部泰弘医師が「小児メンタルヘルス」と各々の立場から、こうした子どもと保護者への多面的な支援について活発な議論がなされました。このセミナーの詳細については本年3月発刊予定の記録冊子でご覧いただけます。

